

審査結果一覧

評価項目	満点	評価点
企業評価	180	
価格評価	100	
機能評価	190	
企画提案評価	230	
総合評価合計点数	700	

プロポーザル採点基準表（書類審査）

審査項目	評価項目	配点	評価基準	判断基準	結果	係数	点数
企業評価	会社概要 (様式第1)	10	会社の規模・事業内容・財務状況等から問題がないかを評価する。	過去3年分の平均値をもとに流動比率から判断する。	>= 250	1	
					>= 150	0.8	
					>= 125	0.5	
					>= 100	0.2	
					< 100	0	
		10		過去3年分の平均値をもとに自己資本比率から判断する。	>= 60	1	
					>= 30	0.8	
					>= 25	0.5	
					>= 20	0.2	
					< 20	0	
		10		過去3年分の平均値をもとに売上高経常利益率から判断する。	>= 6	1	
					>= 5	0.8	
					>= 4	0.5	
					>= 3	0.2	
					< 3	0	
		10	技術力の有無、福利厚生による会社の体制を評価する。	全従業員に占める技術者の割合から判断する。	>= 60%	1	
					>= 40%	0.6	
					>= 20%	0.4	
					< 20%	0	
					DMPの登録 (様式第1)	50	デジタル庁が進める公平公正な調達に対応可能かどうかを評価する。
	品質管理 (様式第1)	10	会社として業務を行う上で、社会的信用度のある認証を持っているかを評価する。	取得している品質管理の個数をもとに判断する。	無	0	
					4	1	
					3	0.8	
					2	0.6	
	導入、更新実績 (様式第2)	20	平成25年以降における市区町村への導入、更新実績を評価する。	業務実績の回数をもとに判断する。	1	0.2	
					>= 35	1	
					>= 25	0.8	
					>= 20	0.6	
					>= 15	0.4	
	業務の正確性、配慮 (資料全般)	60	実施要領・仕様書を理解した上で、提出資料を作成しているか等、社内でのチェック体制や業務への信頼性を評価する。提出書類すべてを評価対象とする。	誤字脱字の個数 x2 レイアウトのずれの個数 表記揺れの個数 上記の個数の合計をもとに判断する。	< 15	0.2	
					>= 15	0	
					>= 12	0.2	
					>= 9	0.4	
					>= 6	0.6	
					>= 3	0.8	
	< 3	1					
企業評価点（満点）		180	評価点(小数点以下四捨五入) = 点数合計				

審査項目	評価項目	配点	評価基準	最低見積額	提案見積額	点数
価格評価	価格評価	100	見積書に記載されている費用に対して評価点を与える。 (最低見積額 / 提案見積額) * 100 = 点数合計			
	価格評価点 (満点)	100	評価点(小数点以下四捨五入) = 点数合計			

審査項目	評価項目	配点	評価基準		係数	個数	点数
機能評価	機能評価	190	実現可能な機能要件に対して評価点 を与える。	○	2		
				△	1		
				×	0		
	機能評価点（満点）		190	評価点(小数点以下四捨五入) = 点数合計			

プロポーザル採点基準表（企画提案評価）

審査項目	項番	評価項目	配点	評価基準	審査委員係数合計	点数
プレゼンテーション審査	0	提案の全体概要・基本理念・基本方針。目指すべき導入後のイメージ。対話型AIの全体像を簡潔に提示し、提案の基本理念（例: 住民中心の情報提供、使いやすさ、持続可能性）、基本方針（例: 直感的な操作性、最新技術の活用、柔軟な拡張性）を明確化して記述すること。	20	・提案全体の構成が分かりやすく、目的や方向性が明確に示されているか ・基本理念や方針が実現可能で現実的かつ先進的か		
	1	現状の分析と課題の抽出。現行の庁舎総合案内窓口及び代表電話の運用状況や、HPの構造、コンテンツ等を分析し課題を抽出。対話型AIの導入により解決すべき課題について具体的に記述すること。	10	・現状の分析が網羅的かつ具体的であるか ・課題が的確に指摘されており、根拠に基づいているか		
	2	現状の課題から見えてくる導入後の方向性。それに対する要件定義やコンサルティング業務の進め方（例: ヒアリング、説明会）、考え方を明示すること。	20	・課題分析と提案内容の連動性があるか ・進め方（ヒアリング、説明会等）が実効的で現場に即しているか		
	3	アクセシビリティへの対応。アバターを活用するなどによりAIへのアクセシビリティを高めつつ、デザインや機能性を損なわない工夫。住民や職員へのアクセシビリティ基準の徹底方法を提案すること。	30	・アクセシビリティとデザイン、機能の両立が図られているか ・庁内職員への教育、浸透方法が現実的で有効か		
	4	運用開始までのスケジュール（例: キックオフ、要件定義、設計、開発、テスト、運用開始）の提示。各担当部局への説明やとりまとめ、関与の取組姿勢（例: 「部局ごとのヒアリング実施」「進捗報告会の開催」）について記述すること。	20	・各工程（要件定義～運用開始）に無理のないスケジュールが設定されているか ・行政側の負担軽減への配慮があるか（ヒアリング、報告会など）		
	5	AIに学習させる情報の整理や登録など、各職員の負担が発生する内容。それに対する軽減策、取組方針（例: 「専任サポートスタッフの配置」「職員の作業時間を最小限に抑える」）を提案すること。	30	・データ整理などに関わる負担への配慮が具体的か ・全庁的な協力体制を前提とした計画になっているか		
	6	運用開始後のサポート体制。継続的な改善提案の姿勢（例: 「AIアバターによる回答率向上のための情報整理アドバイス」「ユーザー満足度調査の実施」）を記述すること。	20	・運用開始後の支援体制が明確かつ継続性があるか ・改善提案やユーザー分析を通じた成長戦略が示されているか		
	7	仕様書に示す以外で提案したい内容、他社と差別化できる特に提案したい内容、将来的に有効利用ができる別システムへの連携などを記述すること。	10	・他社にはない独自性、付加価値があるか ・将来的な拡張性、他システムとの連携性が考慮されているか ・提案内容が仕様書を補完し、魅力的であるか		
デモンストレーション審査	8	操作性・ユーザビリティ	50	・対話型AIとの対話はスムーズか ・画面の見やすさ、直感的な操作ができるか（サインページ、HPチャットボット）		
	9	アクセシビリティ	10	・高齢者や障がい者にも配慮した設計がなされているか		
	10	質疑応答	10	・質疑に対して、適切、真摯に対応できているか		
小計						
企画提案評価点（満点）			230	評価点(小数点以下四捨五入) = 小計 / 審査委員数		

企画提案審査評価の目安

段階	判定	係数
非常に優れている	A	1
優れている	B	0.8
普通	C	0.5
劣っている	D	0.2
非常に劣っている	E	0.1
記述・説明がない	Z	0